

今年最高の発売額を記録!

「Aiba祭」開催

11月9日、さくらセシモ二ホールで、ホッカイドウ競馬支援事業実行委員会（実行委員長 酒井芳秀）主催のもと、今年最後となる第7回目の「Aiba祭」が開催されました。

5月から11月まで月1回の開催を行ってきた「Aiba祭」も最終回を迎えた今回、会場は多くのお客様や軽種馬関係者で埋め尽くされ、今年最高の盛り上がりを見せていました。その盛り上がりは比例するように、この日のAiba静内での馬券発売額は、3,702,300円となり、Aiba静内での一日の発売額の最高金額を記録しました。

ホッカイドウ競馬をより身近に感じてもらい、馬産地日高から盛り上げていこうと始められた「Aiba祭」。この日も会場には、会社の同僚同士や多くの女性客の方が来場し、ホッカイドウ競馬が浸透している様子が伺えました。下記にも記した通り、ホッカイドウ競馬は5年間の存続が決定しましたが、これからも厳しい状況には変わりありません。来年からも皆様の後押しを是非お願い致します。



皆さんスクリーンに目が釘付けです。



実行委員会を代表して酒井新ひだか町長、小竹新冠町長よりお客様へのお礼の挨拶がありました。

ホッカイドウ競馬存続決定!!

これまでホッカイドウ競馬については、単年度での収支均衡が存続への絶対条件とされていましたが、10月5日に行われた北海道議会予算特別委員会において、高橋はるみ知事より「概ね収支均衡への見通しを得た」との発言があり、今後5年間のホッカイドウ競馬存続が決定されました。

【知事発言の要旨】

- ホッカイドウ競馬は、地域経済・雇用に大きく寄与するとともに、我が国の競馬全体を支える競走馬の供給基地の役割を果たすなど、将来にわたって安定的に継続していくことが重要。
- ビジョンに基づく改革の成果として、収支均衡を見通せる段階にきた。
- 今後、地方競馬の共同馬券発売システムや日本中央競馬会との相互発売に向けた協議が具体化するなどの新たな展開が見込める。
- ホッカイドウ競馬の役割と重要性や発売環境の変化などを総合的に勘案し、ホッカイドウ競馬を存続することとした。
- 今後、長期的な視点から新たなビジョンを年度内に策定し、更なる収支改善に努め、安定的な運営を図っていきたい。